

2019年11月17日

主催:岩手県・岩手県男女共同参画センター

2019年度いわて男女共同参画サポーター養成講座

いわての復興・防災に男女共同参画の視点を活かそう

男女共同参画と復興・防災

宗片恵美子

特定非営利活動法人イコールネット仙台 代表理事

イコールネット仙台(2003年設立)



男女共同参画社会の実現に向け、「伝え」「広め」「提案する」活動に幅広く取り組むとともに、男女共同参画を核としたネットワークの形成をめざす。
テーマは生活すべて

特に、防災・災害復興は重要

- ★「災害時における女性のニーズ調査(2008年)」を実施
- ★東日本大震災発生以降・・・
 - ・避難所や仮設住宅において被災女性に対する支援活動・調査活動
 - ・「女性のための防災リーダー養成講座」の実施
 - ・震災の経験を伝えるアーカイブ事業 「伝えるカフェ」の開催 他

東日本大震災発生時の避難所・仮設住宅での支援

洗濯代行ボランティア、物資支援

女性のニーズを掘り起こしての支援－女性による女性のための支援

<避難所の課題>

- * 運営リーダーは多くが男性、女性の声が届かない現実
- * プライベート空間が確保されない。
(仕切りが設置されない、更衣室、授乳室がない・・・)
- * 被災者の3食を女性が調理、調理室に缶詰状態で。
- * 子どもや年寄りを連れて避難。保育所も介護施設も被災して仕事に行けない。
- * 女性に必要な物資が届かない。(下着、化粧品、衛生用品・・・)

* 東日本大震災に伴う「震災と女性」に関する調査(2011)

・女性の被災時・復興時をめぐる課題解決 ・被災地の女性たちの記録

対象:宮城県内3000人の女性 回収率50.4% <1500人の声>

* 聞き取り集「40人の女性たちが語る東日本大震災」(2013)

ライフスタイルの異なる40人の女性たちの3.11からの時間



「男女共同参画の視点からみる防災・災害復興に関する提言」

* 聞き取り集「40人の女性たちが語る東日本大震災」

その後 「今」、そして「これから」(2016)

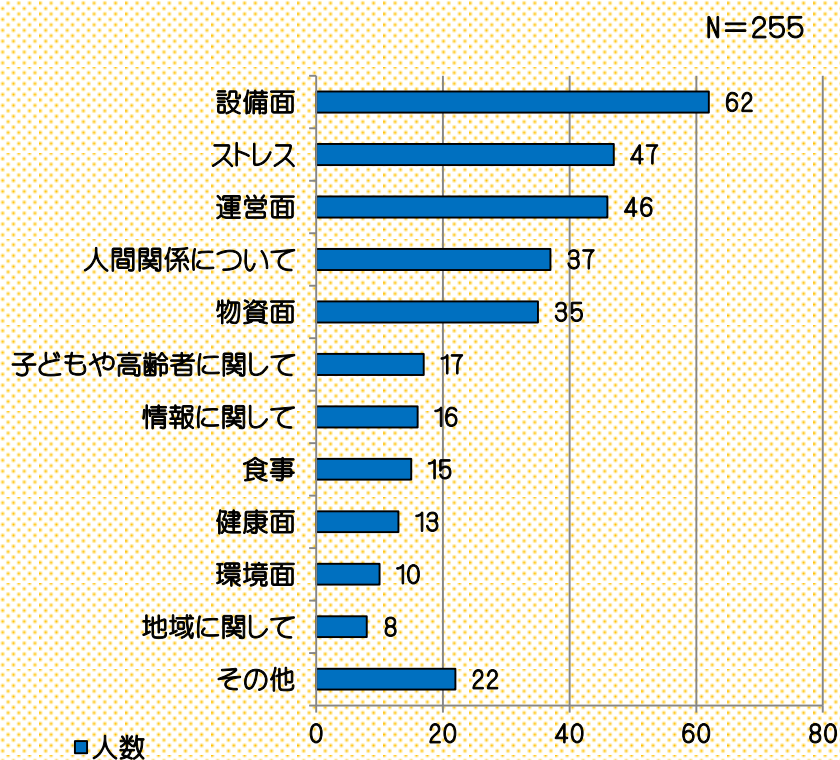
20人の女性たちの5年間の変化・思い・痛み

『東日本大震災に伴う「震災と女性」に関する調査』より

避難所生活で感じたこと

「介護を必要とする配偶者を連れて避難。気を遣った」

「女性リーダーがいてほしかった」……



* 寝るスペースもない。

* 洗濯機もなく、着替えもないため同じ服で過ごした。

* いびきや寝言がうるさく眠れなかった。

* 狭い場所で、男女、子どもと一緒に過ごすのは辛い。

* プライバシーがないため、家族で大事な話ができない。

* ペットの毛やほこりで、アレルギーを起こしかゆみやせきがひどかった。

* 車中避難のため、食料がもらえなかった。

* 寝るのも食事も同じ空間なので、衛生上心配だった。

* 歩行困難の祖母を連れていたので、トイレが困った。

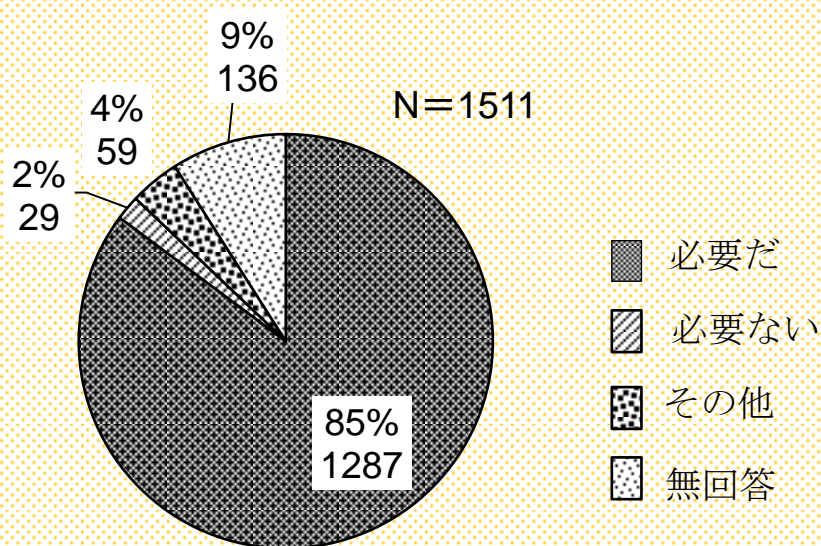
* 乳児を連れて避難。母乳が止まり、ミルクをあげようにも、ほ乳びんもミルクを溶かすお湯もなく、困った。

【震災時、女性たちが抱えた困難】

- 【家族】 * 親戚宅に避難し、気を遣った * 被災した親や親戚との同居で負担が大きい。 * 仮設住宅が狭いために、家族が分散して暮らしている。
* 子どもが震災の恐怖で離れたがらなくなった。
- 【仕事】 * 職場が被災し解雇となった。仕事が見つからない。 * 仕事が激減し、収入が減った。 * 家事や買物ができない高齢者がいたので仕事に行けなかった。 * 子どもが心配で職探しがすすまない。
- 【地域】 * 隣人と面識があまりないので、助け合いは難しかった。
* 地域の人を今回初めて把握できた。
- 【健康】 * 少しの揺れでも被災したことを思い出し、恐怖で涙が出てくる。
* 不眠が続いている。睡眠薬がなければ眠れない。 * 精神的に落ち込みや喪失感が襲ってくる。 * 過労からうつ病を発症。治療中。

復興計画策定の議論の場に 女性の参画が必要

85%



計画に女性の視点を反映させるために盛り込むべき内容は

- ①「障がいのある人、妊産婦、病人、高齢者、子どもなどのニーズをふまえたきめ細かなサポート体制を整備する。
- ②女性の地域防災リーダーや災害復興アドバイザーを育成し、地域に住む人々の支援体制を実効性のあるものにする。
- ③女性の視点に配慮した避難所運営マニュアルをつくる。
- ④避難所や仮設住宅の運営に女性の参画が必要であることをマニュアル化する。

「女性のための防災リーダー養成講座」

＜2013年～2015年＞

（3年間で100名の女性防災リーダーの養成を目指す）

地域防災の担い手となる女性の人材を養成

＜振り返り編＞

NO1	なぜ、防災・減災に女性の視点が必要か！
NO2	地域防災計画を知ろう！
NO3	震災で起きていること DVと児童虐待
NO4	障害の特性と対応を知ろう！/震災後の心のケアに取り組む
NO5	「災害時、こんな時の対応は・・・」ワークショップ

＜実践編＞

受講生は自分の地域で、防災の取組を実施→団体がサポート

＜地域にねざす人材を育てる長期的プログラム＞

第1期(2013年)



第2期(2014年)



第3期(2015年)



【広がる養成講座(宮城県内)】(岩沼・石巻・東松島・大崎・利府・塩釜等)



女性防災リーダーネットワーク(女性防災ネット)設立

- ◆研修会や情報交換会を通して、防災のスキルアップをめざす
- ◆地域で防災の取り組みを企画運営。
- ◆地域を超えてメンバー同士が支え合うネットワーク

【女性防災リーダーの実践】

地域の児童館・学校・自治会・大学等との連携ですすめる
防災の取り組み



【女性防災リーダーの実践】 主催:女性防災ネット宮城野

市民のための防災力UP講座<宮城野区編>7.8/7.15

※なぜ、防災・減災に女性の視点が必要か



※宮城野区の防災 ここがポイント!



※災害に備えて～サバ飯づくりワークショップ～



「第3回国連防災世界会議」開催（2015年3月）

＜仙台防災枠組2015-2030＞

第3回国連防災世界会議で採択された今後15年の世界の防災指針

【原則】

ジェンダー、年齢、障害の有無、文化の重視と女性・若者の
リーダーシップ

これまで防災分野で大きな発言権がなかった多様な集団に
「被災者」のみとしてではなく、「リーダーシップ」を発揮する
人として焦点が当てられた。

=女性防災リーダーの「現在」を伝える=

シンポジウム「女性防災リーダーの実践と可能性」
(2016.3.4)



シンポジウム「女性防災リーダーの活躍にみる
可能性と課題」 (2017.3.15)



報告「女性防災リーダー育成講座の実践」
(2018.3.11)



仙台防災未来フォーラム2019 実践-防災・減災に取り組む女性を育てる (2019.3.10)